

じいじのさくら山

松成真理子作 白泉社

じいじがうえた、さくら山のさくらの木は、おおきく
そだつてもうそらにまでとどきそう。山のことはなん
でも知っているじいじ。「じいじはすごいな」おれがい
うと、「なんもなんも」じいじがわらう。でも…。

ぼたぼた雪がふったひに、じいじがびょうきになりま
した。じいじのびょうきをなおし

てください。おれはさくら山のさ

くらの木にたのんだ。なんべんも

なんべんも。

祖父と男の子の心の交流を、美

しい桜の絵とともに描いた絵本。

